

## SDGs かるたを用いた教育による興味関心・理解度の変化に関する研究

日本文理大学 学生会員 ○橋口 睦月  
正会員 中西 章敦

### 1.はじめに

近年、SDGs は社会に広く浸透してきている。SDGs という言葉そのものの認知率は 80%にのぼり、高い認知率となっている<sup>1)</sup>。一方で、SDGs のすべての内容を理解しているという人は 4%と非常に少なく<sup>2)</sup>、SDGs という言葉を聞いたことはあるが、理解はしていないという人が多いのが現状である。教育界においても子どもたちへの SDGs 教育が取り組まれているが、効果的な SDGs 教育方法が確立していない。子どもたち自身にグローバルな課題を自分事と捉えてもらうためには、自身の言葉や絵、身体的表現をさせる活動を行い、伝え合うようにすることによって共に問題解決に向けて取り組んでいくことが出来る<sup>3)</sup>との結果もある。

本研究では効果的に SDGs を理解してもらうため、老若男女問わず遊ぶことが出来るかるたを子どもたちと協働で作成することとした。かるたに用いられる七五調のリズムは文学の世界だけでなく、日常でもよく目にし、耳にする。七五調は、日本語母国語者には耳に心地よいだけでなく記憶にも良く残る<sup>4)</sup>ため七五調のリズムにのせて表現すると、その内容は強い印象を残すことが出来る<sup>5)</sup>。SDGs に対する興味関心・理解度をさらに高めるため SDGs に関する SDGs かるたを作成する授業を行う。このかるたを通じた活動による子どもたちの SDGs に対する興味関心・理解度の変化を明らかにすることが目的である。

### 2.調査対象者

調査対象者は、大分市立大在中学校 24 名、日本文理大学附属高等学校 61 名、合計 85 名を対象とした。

### 3.研究方法

中学生・高校生に何も知らない状態で SDGs に関する事前アンケート調査を実施した。次に SDGs の認知・理解のための SDGs に関する授業をかるた作成前に行った。授業後アンケートを行い、授業が効果

的であったかをアンケートによって明らかにした。次に、SDGs かるたの絵札を中学生・高校生に読み札をもとに作成させた。中学生・高校生自身が作成したかるたで実際に遊ばせ、SDGs に対する興味関心・理解度を高めさせた。その後アンケートを実施し、何も知らない状態と SDGs 事前授業、かるた作成を体験した後とで比較し、興味関心・理解度の変化を明らかにした。興味関心は SDGs を自分事と捉えられているか、理解度は内容を把握しゴールを何も見ない状態で記述できるかを基準に判断した。

### 4.結果と考察

SDGs の興味関心の事前・事後アンケート調査の結果をまとめたデータを図-1~2 に示す。

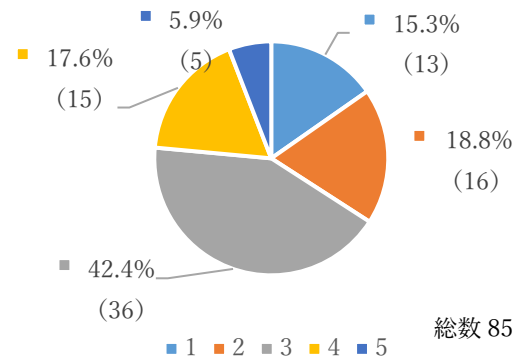


図-1 SDGs の興味関心 5 段階評価 (事前)

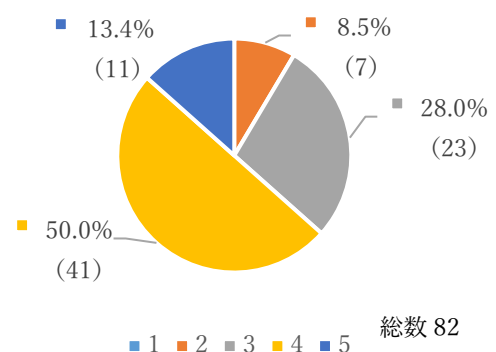


図-2 SDGs の興味関心 5 段階評価 (事後)

1 は全く興味がない, 5 は非常に興味・関心があり自分事と捉えられているかを基準にした 5 段階評価のアンケート調査では, かるたを実施したことでより興味関心を持つ生徒が増えたことがわかった。

ゴール別の 5 段階評価で平均点を出し, 事前から事後の伸びを表したものを表-1 に示す。Goal.10 の興味関心以外の全ての項目で点数が伸びている。かるたを行うことで興味関心・理解度と共に向上していることがわかる。興味関心の Goal.10 に関しては事前から事後で変化がないが, 理解度では他の Goal と同程度向上している。

表-1 興味関心・理解度ゴール別 5 段階評価

項目 Goal num.	興味関心			理解度		
	事前	事後	差	事前	事後	差
Goal.1	3.3	3.7	+0.4	3.4	3.8	+0.4
Goal.2	3.4	3.7	+0.3	3.4	3.8	+0.4
Goal.3	3.3	3.5	+0.2	3.1	3.6	+0.5
Goal.4	3.1	3.5	+0.4	3.2	3.7	+0.5
Goal.5	3.6	3.9	+0.3	3.4	3.8	+0.4
Goal.6	3.3	3.5	+0.2	3.2	3.6	+0.4
Goal.7	3.0	3.4	+0.4	2.9	3.4	+0.5
Goal.8	3.0	3.3	+0.3	2.8	3.3	+0.5
Goal.9	2.8	3.1	+0.3	2.6	3.1	+0.5
Goal.10	3.6	3.6	±0	3.4	3.8	+0.4
Goal.11	3.3	3.6	+0.3	3.1	3.6	+0.5
Goal.12	3.4	3.6	+0.2	3.1	3.7	+0.6
Goal.13	3.2	3.6	+0.4	3.2	3.6	+0.4
Goal.14	3.6	3.9	+0.3	3.5	3.9	+0.4
Goal.15	3.5	3.8	+0.3	3.3	3.8	+0.5
Goal.16	3.5	3.7	+0.2	3.3	3.7	+0.4
Goal.17	3.1	3.4	+0.3	2.7	3.4	+0.7

かるた作成後に, SDGs について自分達にできることを自由に記述してもらったデータをテキストマイニングで解析したものを表-2 に示す。関連するゴールについては個々の回答および共起ネットワークから判断した。身近にできることであるボランティア活動やごみ拾い, SDGs を学ぶことなどが挙げられた。その自由記述の中でも頻出語を 10 つ挙げそれに関連するゴールを導き出した。Goal.11, 12, 14, 15 は身近に感じ自分達で行動できそうだと考えられるゴールであるとわかる。しかし他のゴールに関してはまだ身近に感じられず行動を起こすには難しいまたは自分達ではどうしようもできないと感じてしまっているゴールであると考えられる。

表-2 自由記述から関連するゴール

頻出語	関連するゴール
1.ゴミ	Goal.11, 12, 14, 15
2.考える	Goal.1~17
3.残す	Goal.2, 11, 13, 14, 15
4.使う	Goal.12
5.食べる	Goal.2, 3, 14, 15
6.知る	Goal.1~17
7.拾う	Goal.11, 12, 14, 15
8.ポイ捨て	Goal.11, 12, 14, 15
9.捨てる	Goal.11, 12, 14, 15
10.ご飯	Goal.2, 12

## 5.結論と今後の課題

SDGs を身近に感じさせることによって興味関心・理解度が向上すること, ゴールによっても理解度の向上に差があることが明らかになった。今後の課題としてゴールごとの差が生じる原因を明らかにすることなどがあげられる。

## 謝辞

本研究に取り組むにあたり, 大分市立大在中学校の皆様, 並びに日本文理大学附属高等学校の皆様にはアンケート調査および SDGs 授業, かるた作成に協力していただきました。ここに記して感謝の意を表します。

## 参考文献

- 1) 株式会社電通:「電通, 第 5 回「SDGs に関する生活調査」を実施」, 株式会社電通ホームページ, pp.1-10, 2022
- 2) PRTIMES:「SDGs を人に説明できますか? 認知度や取り組みへの意欲を男女 500 人にアンケート調査」, ケイティケイ株式会社ホームページ, 2022
- 3) 宇士泰寛, 林敏博, フレデリックデュマバン, 上田敏博:大陸間 SDGs 教育実践のメソッドと可視化による展望, 相山女学園大学教育学部紀要, Vol.15, No.15, pp.211-216, 2022
- 4) 酒井たか子, 高橋純子:現職日本語教師研修のための総合教材開発「日本語を楽しむ」の制作意図と発展-, 筑波大学留学生センター日本語教育論集, Vol.21, pp.201-225, 2006
- 5) 鶴町佳子:中・上級の成人学習者を対象とした「かるた作り」活動, 日本語教育方法研究会誌, Vol.15, No.2, pp.50-51, 2008